

# 令和2年度第3回大野市環境保全対策審議会の概要

日 時 令和2年11月9日（月）

午後7時00分～午後8時50分

場 所 結とびあ 3階 305号室

## 1. 会長あいさつ

## 2. 議 事

### (1) 第三期大野市環境基本計画の策定について

#### 国の取組について

アドバイザーとして参画していただいている黒部氏（環境省大臣官房統括グループ）より、参考資料「SDGs と「地域循環共生圏」を基に、「地域循環共生圏」等について、説明を受けた。

#### 「基本目標」及び「重点施策」について

事務局より、資料01に基づき説明。委員から受けた指摘事項等を事務局にて必要に応じ反映させるなどし、引き続き策定作業を進めることとされた。

委員からの意見等は次のとおり。

#### <基本目標①自然との共生社会の形成について>

- 委員：重点施策「野生動植物の保全」の数値目標の指標（案）が「本願清水イトヨの里入館者数（件）」とあるが、指標としてふさわしくないのではないか。
- 委員：重点施策「野生動植物の保全」の数値目標の指標として、大野の河川にいる在来魚等を紹介する企画展への来訪者数や六呂師の自然保護センターの入館者数などが考えられる。
- 事務局：大野市における希少な野生生物の代表はイトヨと考え、本願清水イトヨの里入館者数を成果指標の例にあげさせていただいた。しかしながら、委員ご指摘を踏まえて、指標を検討したい。
- 委員：重点施策「身近な自然とふれあう活動の推進」の具体的な施策について。「触れる・考える・行動する」が環境教育では良いと言われており、いい体験をしてそれに基づいた考え方をし、行動に移すということである。年代や自然とのふれあい経験の有無によってかかわり方、体験の仕方、行動結果が変わってくる。そのあたりを念頭に置きながら具体的に何をするか考えていただきたい。
- 委員：重点施策「農地の保全と活用」について。移住や定住関係でコーディネートをする際に、有機農業を大野のどこでできますかといった質問を受けることが最近多くなった。以前はお勧めする方が何人かいたが、高齢化やお亡くなりになった方がいて、最近は少なくなってしまった。有機農業等をやってみたいという人に対して、紹介できる場所やエリ

アがあるとよい。外からいい人材が入ってくるのではないかと考えている。

○委員：昨年から森林環境譲与税で森林サービスを提供していこうという大きな流れになっていると思うが、この森林環境譲与税を使った地域資源の活用、山林の保全と活用をもう少し具体的にしていくとよいのではないか。また、都市部との交流にもなるのではないか。

<基本目標②低炭素社会の実現について>

○委員：重点施策「気候変動適応策の推進」における数値目標として用いる指標（案）がないのはなぜか。

→事務局：現段階で検討中につき、適切な指標を見定め切れていないため今回はお示しできなかった。基本的に、1つの重点施策につき1つ以上の数値目標を設定したいと考えている。次回の審議会までにはお示ししたい。

○委員：「道路照明の消費電力の削減」にあたって、消費エネルギー量の低いものに取り換える等の方法であればよいが、既存電灯を減らすような形は、防犯上など問題があるのではないか。

→事務局：市所管の街路灯及び防犯灯をLED化していくという趣旨である。

○アドバイザー：政府としては、2050年までにCO2排出量の実質ゼロを目標にしている。大野市でもCO2排出量を実質ゼロにするという決意表明も込めて、「低炭素」とある表記を「脱炭素」に変更することを検討していただきたい。また、2050年に向けた取組や地域循環共生圏に関し、計画に反映させるにあたって課題等あれば、話を伺いたいと思う。

→事務局：2050年に向けての脱炭素ということだが、本計画については、2030年に向けての計画であり、2030年の目標、姿としては脱炭素まではたどり着かないのかなという意味で低炭素と表現しているが、検討させていただきたい。

<基本目標③資源循環型社会の構築について>

○委員：昨年、中学校とともに赤根川の生き物を観察したところ、生徒たちは魚を取ったりすることに対して非常に楽しく参加しており、非常によいことだと感じた。動植物の保全、身近な自然に出会う活動、水資源・河川・湧水地の保全、全てに当てはまってよいと思う。しかし、活動中、中学生たちが、河川に流れている、あるいは落ちているごみを拾おうとしないのが残念に感じた。観察会の目的は果たされているかもしれないが、自然環境全体の観点に立ち、これからごみを減らしてかなければいけないという考えを子どもたちに教えてあげなければならないと感じた。

○委員：ビュークリーンおくえつに搬入されているごみの多くを占めている雑紙の発生源はどこか。事業所か一般家庭か、出所がわかれば対策も変わってくると思う。

→事務局：ごみの組成割合は、大野・勝山広域事務組合が行っている調査に基づくもので、当該調査では排出源がどちらによるものなのかという事はわからない。今後取り組んでいく上で、発生源がどこかというのは重要かと思われるので、調査方法も含めて検討してまい

りたい。

○委員：環境問題は非常に大事なことでありながら、結果が見えないという事で寂しい思いをしている。例えば一人ひとりがCO2削減に心がけようという活動をしてもしっかりとその結果が見えないという事で残念に思っていた。最近、マイクロプラスチックの影響を受けた魚を私たちが食べることの危険性に目を向けて、海洋プラスチック問題について取り組んでいる。子供や大人に対し啓もうしていくため、紙芝居を作成しているところだが、アンケート結果によると海洋プラスチック問題に対する関心が高いという事なのでやりがいを感じている。しかし、アンケート結果にあるとおり39歳以下の関心度が低いこともあってか、若い人にポイ捨てをする者が非常に多い。紙芝居を使って啓もうしていきたいと考えているので市と協力しながら頑張っていきたい。

○アドバイザー：県では、福井県廃棄物処理計画の改訂に伴って、可燃ごみの中に含まれているごみについて削減あるいはリサイクルを進めていこうと考えている。環境省においても、プラスチックごみ削減の推進に関して、プラスチック資源循環戦略に基づいてプラスチック製容器包装やプラスチック製品の一括回収を検討していると聞いているが、各市町においてはごみ焼却施設の性能や設備が異なっている中で、大野市も含め県内市町がどのようにプラスチックごみの一括回収体制を整えていかれるのか、県として注視しているところ。中でも、ごみ組成割合などを県と市町で共有しながら課題等を見つけて、施策を進めていきたいと考えているので、何が問題になっているのかなど県に情報提供してほしい。

#### <基本目標④「快適な生活環境の保全について」>

○委員：重点施策「良好な景観形成」に対する指標（案）「景観誘導の件数」と、重点施策「歴史的文化的遺産の保全」に対する指標（案）「おおの遺産認証件数」、それぞれの指標がどういったものか教えていただきたい。

→事務局：「景観誘導の件数」は、市では、家屋等の、歴史的なまち並みなど周囲の景観に配慮した改修等に対して補助することで、景観誘導を行うという施策を実施しており、その件数である。「おおの遺産認証件数」は、地区や集落などに古くから伝わり、次世代に継承することが必要な年中行事や伝統芸能、風習などを「おおの遺産」として認証しており、その件数である。

○委員：重点施策「野外焼却・不法投棄の防止」の指標（案）として、野外焼却の苦情件数や不法投棄の受付件数とあるが、野外焼却や不法投棄が違法である事等の認知が深まると、かえって苦情や通報件数が増えてくるのではないかと思うので、改善率のような指標が設定できないか。また、1人1日当たりごみ排出量の削減が前面に出ると、かえって自宅等での野外焼却の増加を招く恐れがあるのではないか。

→事務局：ご指摘の点を踏まえて具体的な施策と指標を検討してまいりたい。

○委員：基本目標⑤「総合的な取組の推進」において、SNS等を活用し必要な人に必要な情報

が届くよう情報発信するとあるが、SNS は若者中心なると思われ、また、野外焼却や不法投棄をする者は、そういったものをあまり見ないと考えられるので、引き続き広報誌等も活用して広く発信できれば良いと思う。

<基本目標⑤総合的な取組の推進について>

○委員 : 6月実施のアンケート結果を見ると、小学生たちは学校の授業や講座等の取組もあって関心が高いにもかかわらず、中学生になるとぐっと落ちている。出前講座を中学生においても実施していただくなどし、小学生の頃の関心の高さが根付いていくような教育が出来たら、大野のいろいろな計画も底辺が厚くなるのではないかと思う。

→事務局 : 委員ご指摘のとおり中学生の環境に対する関心が小学生に比べて低い。また、アンケート結果によると 20代 30代についても他の年代に比べて意識が低いという結果になっている。出前講座の実施や SNS 等、年代やターゲットを絞った情報発信やイベントを実施して、意識啓発向上に取り組んでまいりたい。

○委員 : 重点施策「環境情報の収集と共有化」について。市民一人ひとりが取り組んでいる環境にいい事や自然に対しての取組などを市内外に情報発信するような SNS 等の仕組みはどうか。大野市民がこういったことをしているよということが具体的に市内外に伝わると、活動に対するモチベーションも含めて盛り上がってくるかと思う。

○委員 : こういった計画を立てて活動しているということを市民のどれだけが知っているのか、あるいは関心を持っているのか疑問。いかにして環境計画に沿った活動を市民に広報するのかという事が大事ではないか。

→事務局 : 環境に関する政策を推進していくにあたっては市民の方々、あるいは事業所の方の具体的な行動が必要になってくるので、計画自体をご理解いただき取り組んでいただけるよう働きかけをして、そのための広報活動についても力を入れていかなければならないかと考えている。委員の皆様からも具体的なご意見やご提案があればお聞かせいただきたい。

<その他>

○委員 : 各地区単位で一つの目標を立てて具体的な行動をしていくとよいのではないか。そして少しでも結果を出して行ってほしいと思う。

○委員 : 目標をきちっと立ててその目標に向かってやっていくという事が大切。各分野の具体的な取組は次回の審議事項となっているので、その辺りきちっとしておかなければいけないと思う。

○委員 : 数値目標として用いる指標やその数値については、これから検討するのか

→事務局 : 今回示したのは例であり、最終的な指標およびその数値目標については、次回の審議会にてお示ししたい。

○委員 : 基本目標②「低炭素社会の実現」、基本目標③「資源循環型社会の構築」、基本目標④「快

適な生活環境の保全」は、村部と都市部では暮らし方が全然違うので、村部、都市部それぞれ 1, 2 カ所の住民の方々にモデル事業的に手伝ってもらって、それをもとづく取り組み方を村部と都市部それぞれの暮らしへの波及を図っていく、そんな施策も面白いのではないかと。

- 委員 : 重点施策等の見直しは、5 年後だと計画の半分が終わっている。3 年ごとに見直しをかけた方が、次の手を打ちやすいのではないかと。そしてその結果を市民に公表する。公表の仕方も工夫し、チラシ等だけでなく住民が目につくような方法、気になるような情報や方法を考えて、計画の結果を市民に理解してもらえそうな広報を検討してほしい。
- 事務局 : 上位計画である第六次大野市総合計画が 5 年で見直すこととしているため、環境基本計画もそれに合わせて 5 年としているが、ご指摘の見直し時期に関して検討してまいりたい。

#### <地域循環共生圏等について>

- 委員 : 大野市の地域経済循環分析における「地域の所得循環構造」について質問。「生産・販売」→「分配」→「支出」→「生産・販売」のサイクルの中で、市民に「分配」された 1,338 億円がまた生産に戻ると思うが、これが「支出」で減ることなく 1,338 億円が「生産・販売」に戻ることが理想なのか。ネット販売や通販の利用で、お金が流出し地域の弱小化が加速してしまうと感じている。
- アドバイザー : 「分配」1,338 億円がもっと増えて、「生産・販売」「分配」「支出」を巡る所得の循環がもっと太くなるのが一番の理想。例えば、労働生産性つまり域内の稼ぎは、大野市は 1,719 市町村中 1,539 位となっており、大野市単体としては必ずしも稼いではいない。一方で「分配」局面では域外に仕事に行き稼いでいる、あるいは、外に投資をした分が大野市に本社等があるなどして 61 億円が戻ってきている、あるいは、政府からの補助金や交付金をもらうなどして、1,719 市町村中 1,026 位という順位に上がっている。できれば、この 1,026 位という順位をキープして、稼ぎを「生産・販売」に戻していきたいということになるが、その途中の「支出」局面において、外に出ていく漏れの部分をどれだけ止めることができるか、特に再生可能エネルギーで、エネルギー代金としての域外への支払いをどう止めるかが大事なのかと思う。

## 2. その他

事務局より、次回審議会を 1 月中旬に実施し、素案（具体的施策、成果指標及び数値目標）について審議いただきたい旨を説明。

## 3. 副会長あいさつ